

# 平成30年度 神還連 大会運営細則

## 1. 細則

この細則は、神奈川県還暦軟式野球連盟(神還連)の大会運営上の取決めについて定める。

## 2. 試合会場責任者

大会の運営は、各試合会場の責任者が主体となり、責任と権限を持ってその任にあたるものとする。

- (1) 会場責任者は、予め指定した会場の担当ブロック長、常任理事、またはそれに代わる者が担う。
- (2) 会場責任者は、当日の天候等により実施が危ぶまれる状況のときには、実施可否を判断し決定の上、可及的すみやかに大会運営担当と当日の試合予定チームの連絡担当者へ通知しなければならない。

## 3. 実施可否の確認と連絡

- (1) 当日の試合該当チームの連絡責任者は、天候等の事情で実施可否が危ぶまれるときには、該当する会場責任者に実施可否を確認し、チーム内に連絡徹底を図ることとする。

## 4. 審判員

- (1) 各会場責任者は、各会場の試合を担当する審判員の派遣を神奈川県野球連盟の地元支部に要請し、有資格者審判員の確保と円滑な試合運営を図ることとする。
- (2) 各試合における審判員の配置(球審と塁審)
  - ① 還暦の部 有資格者による3人制とする。但し、準決勝戦と決勝戦は4人制とする。
  - ② 古希の部 基本は有資格者による3人制とする。  
但し、塁審は球場ブロック長の判断で還暦等選手が担当することも可とします。
  - ③ G古希の部 古希の部と同とする。

## 5. 使用球場

- (1) 使用する球場は、大会事務局が事前に関係者と協議し、使用することを確認し準備した球場とする。
- (2) 球場の試合開始前の準備、整備は、会場担当ブロックのチームが担当し、試合間のグラウンド整備は原則として試合終了の両チームが協力して行うこととする。  
※ 球場準備とは、塁間、投手板の位置測定、投手板設置、各区画線の設定、ベース板の準備等とする。

## 6. 大会規則

- (1) 適用規則は、当該年度の「公認野球規則」並びに「全日本軟式野球連盟規定」を適用する。
- (2) 大会規則
  - ① 競技場の区画は、投手板と本塁間の距離は16.3m、各塁間は25mとし、他の区画線は一般に準ずる。
  - ② 大会方式は、別途定める神還連規定による。
  - ③ 試合は、すべて7イニング制とし、110分を越えて新イニングに入らない。
  - ④ 7回終了時に同点の場合
    - (a) リーグ戦の場合は、引分とする。
    - (b) 決勝トーナメント戦も、7イニング制、試合時間110分制とし、同点時は抽選で勝敗を決める。  
但し、準決勝と決勝戦の同点時(7回または110分経過後)は、タイブレーク方式を行う。
      - ・準決勝戦：タイブレーク方式を1回行い、更に同点の場合は抽選で勝敗を決める。
      - ・決勝戦：決着がつくまでタイブレーク方式を行う(時間制限はなしで日没時等は再試合)
    - ・タイブレーク方式：打者は前回からの継続打順とし、無死満塁(一塁走者は前位の打順の者、二塁走者は前々位の者、三塁走者は前々々位の者)での攻撃を両チームが行なう。  
代打、代走は、通常ルールと同様(退いた選手は出場できない)に行うことができる。
  - ⑤ 5回終了以降に10点差の場合は、得点差によるコールドゲームとする(但し、決勝戦は除く)
  - ⑥ 途中、日没、降雨、他の理由で審判員が試合続行不可能と判断した場合、
    - ・5回が終了している場合は、その試合は成立し正式試合となる(均等回の得点で勝敗を決める)
    - ・5回が終了していない場合は、その試合は成立せず、再試合を行う
    - ・本項は、決勝戦も適用する。
  - ⑦ DH制打者の採用 (Designated Hitter 指名打者)
    - ・9人の守備要員のほかに、打撃のみを行う選手1人を加えた攻撃10人制のDH制を適用する。
    - ・DH打者は、打撃のみ行うことができ、守備につくことはできない。
    - ・DH打者の打順に制限はないが、その打順の打者は試合終了まで打撃のみを行う。
    - ・DH打者に、代打、代走を出しても良いが、その選手は守備につくことはできない。
  - ⑧ ベンチ入り選手
    - ・試合時のベンチ入り出場選手は、原則11人以上が確保されていること。  
(高齢者スポーツであり、なるべく多くの交代要員を確保することが望ましい)

- ・ベンチに入る者は、いずれも登録された者で、ユニフォームを着用した監督、選手と代表者、連絡責任者、マネージャー、スコアラー、トレーナーとする。

## 7. 試合の準備

- ① 試合会場への集合
  - ・各チームは、原則、開始予定時間の60分前までに、試合会場に到着し、大会本部に申告する。
  - ・開始予定時間を経過し、何ら連絡がなく到着しない場合は棄権として処理する。
  - ・但し、事前に連絡があり、遅延理由が自然災害、交通事故等やむを得ないと判断した場合は相手チームの承諾を得て、試合の実施を配慮する。
- ② オーダー表提出
  - ・第一試合出場チームは開始30分前、以降は前試合の4回終了時、または開始1時間を経過したら、監督または主将が本部に提出用オーダー表3通(チーム控用は別)と試合球(2個)を提出し、審判員立会いのもとに攻守を決定する。
- ③ オーダー表の提出
  - ・オーダー表には、先発選手と当日のベンチ入り選手名を記載する。
  - ・当日のベンチ入り選手名は、別紙選手一覧に該当選手名を明記して提出しても可とする。
  - ・大会本部(球場担当者)は、提出されたオーダー表を選手名簿と照合し登録の確認を行う。
- ④ ベンチサイド
  - ・組合せ表の若い番号のチームが一塁側、他チームが三塁側とする。
- ⑤ 次試合のバッテリーの投球練習
  - ・次試合のバッテリーは、前試合の4回終了後、または1時間経過後にブルペンでの投球練習を可とする。

## 8. 用具の規定

- ① 試合球
  - ・試合球は、全日本軟式野球連盟公認球ナガセケンコーボールB級を使用する。
  - ・試合に使用するボールは、出場チームが各2個を用意し、オーダー表提出時に本部へ持参する。
  - ・試合中にファウルボール等での紛失や破損の場合は当該チームが補充する。
- ② 金属バット
  - ・連盟公認(JSBB印)のものを使用すること。
  - ・試合中に雷が発生した場合には状況を判断し、試合を中断して全員を安全な場所に避難させ、天候情報を把握しその後の処理をする。
- ③ ヘルメットの着用義務
  - ・危険防止のため、打者、次打者、走者、ベースコーチはヘルメットの着用を義務付ける。
  - ・捕手は、マスク、ヘルメット、レガース、プロテクター着用を義務付ける。ファウルカップは着用が望ましい。
  - ・また、攻守交代時の捕手補佐もヘルメット、マスクを着用を原則とします。
  - ・但し、本大会は、着用しない場合には、立って捕球することも可とします。
- ④ スパイク
  - ・金属刃付スパイクの使用は禁止する。
- ⑤ サングラス
  - ・サングラスの着用は、天候状態等によりプレイに支障が出る場合は、事前に本部に申し出て、承認を得れば使用可とします。
- ⑥ メガホン
  - ・ベンチ内に限り、1個の使用を認める。
  - ・ベンチ内には携帯電話、パソコン等の電子機器類や携帯マイクの使用は禁止する。
- ⑦ ダブルベース規定 → 古希とG古希の試合時の一塁ベースに使用
  - ・内野ゴロ等、一塁でプレイが行われた場合、打者走者はオレンジベースに、守備プレイヤーは白色ベースへの触塁を義務とする。走者が触塁後に一塁へ帰塁する場合は白色ベースに触れなければならない。
  - ・一塁でプレイが行われない場合は、打者走者はどちらのベースにも触塁することができる。
  - ・但し、一塁側のファウル地域から一塁にボールが転送された場合は、打者走者、守備プレイヤーはどちらを使用しても良いこととします。また、守備プレイヤーがオレンジベースを使用しているとき打者走者はフェア地域を走ることができることとします。

## 9. 本規則は、平成30年度神還連春季大会に適用する。

以上